

和歌山大学教育学部附属特別支援学校 学校運営協議会

令和7年度第1回 7月4日（金）10:00～12:00

出席者:委員7名（委員1名欠席）、事務局本校職員3名

次第

- 1 開会 学校長挨拶
- 2 学校運営協議会委員紹介及び本校教職員紹介
- 3 和歌山大学教育学部附属学校運営協議会の説明
- 4 会長・副会長の選出
- 5 学校の概要及び学校運営方針について
- 6 授業見学
- 7 報告・協議
 - ・本年度学校経営計画（案）について
 - ・意見交換（附属特別支援学校の今後について等）
 - ・その他
- 8 その他
 - ・今年度の学校運営協議会の開催日程
- 9 学校長挨拶 閉会

説明、報告・協議の記録

説明

●令和7年度学校の概要及び学校運営方針について

（校長より説明）

- ・和歌山大学教育学部附属特別支援学校の現状と課題
- ・和歌山県の特別支援教育状況、令和6年度特別支援学校高等部卒業生進路状況
- ・令和7年度の学校運営方針 重点目標
 - 1 教育と研究（先進教育）
 - 2 人材育成（教師力・教育実習）
 - 3 地域連携・地域貢献
- ・学校経営計画について
- ・今後の活動計画について

報告・協議

（学校経営計画について各学部主事より補足）

小学部

- ・自己、他者を素敵だと思えるように。

- ・自分の思いを持つ、考えられるように。
- ・苦手なことより得意なことをのばす。
- ・児童へのアプローチ方法を共有して一貫した教育を行う。

中学部

- ・キャリア教育に重きを置き指導。自己、他者の理解を通してレジリエンスの理解と高める指導。
- ・目に見えない「気持ち」の理解。ポジティブ、ネガティブの気持ちがあることを知る。

高等部

- ・新入生よりコース制をなくし、多くの集団での活動を通し、コミュニケーション力、人間関係の構築を高める環境を設定。
- ・担任以外の多くの教員とのかかわりを多くし関係性の広がりを重視したグループ編成を行っている。

●意見交換

- （委員）学校を卒業した後、困っているときに積極的に声をかけてくれたら、もっと支援できる人が増えるが、自分から声を出せる人が少ない。自分の強みを知ることとは大切。社会で通用する力を指導してくれている。ありがたいと思う。
- （委員）うちの会社は厳しい仕事を中心に行ってきた。今日の授業を見て楽しいという表情が見られた。子どもを預かった以上職場でもこの笑顔をつなげたい。
- （委員）子どもたちとの触れ合いということ、朝の見守りを自治会の3～4か所で行っている。バス通学生の通学路にもなっていて、挨拶を行うと元気よく返してくれる。こうした触れ合いの力は感じる。
- （委員）中学部から入学してきたが、なかなかしゃべれない子どもだった。いろいろなことができるようになってきた。
- （委員）共生社会、インクルージョンは大きな言葉である。いろんな立場で関われる中でも有用性が大切。和附特は生きる力を育む中心でいる学校であると思う。授業を見ていて生徒たちがかわいい。自分のしんどさを持ちながらもけなげに頑張っている。高等学校への支援を行っている中で、先生の悩みの中に、生徒たちのしんどさに気づいてあげられない、共有できないとある。子供たちは自分の力を出せない。楽しく生活していく、卒業後よりよく生活していける力。これは和附特の責務であると思う。
- （委員）卒業するまでにつけておいた方がいい力について、どんな力が必要になりますか？
- （委員）相談支援センターは、待ちのポジションである。相談に来てくれることでスタートする。自分から発信する力、自分の弱みを出せることが大切。受け入れてくれる人はたくさんいるので。
- （委員）A型は厳しい仕事で、集中力がある。短時間でもいい、集中して取り組める力が必要。何かいいアドバイスがあれば教えてほしい。

(委員) 今チャット GPT で「学校運営協議会の挨拶文」と検索した。それなりの挨拶文がすぐに提示される。しかしそこには具体的な内容がない。学校には具体的でプロセスを大切にしたい指導を大事にしてほしい。

(委員) 和附特の生徒はみんなしっかりしている印象がある。これまで負のイメージを持ってきた子どもたちもリーダーシップをもって取り組んでいる。学校で様々な経験ができるのは素晴らしい。

(委員) 高校へ進学するこの中に、高校で不登校。地域でフォローできない。高校を退学して、支援学校へ編入することは可能か？

(委員) 支援学校から高等学校は新入学ということであればある。高等学校では支援が行き届いていない状況がある。高校退学→通信制へという流れが多くなっている。

(委員) 高校退学→支援学校へという流れはあるのか？高校→不登校。行き場所がない現状がある。

(委員) 制度の部分や気持ちの部分で高校→支援学校は難しい。通信制や定時制への編入が多いと思う。

(委員) 和附特には具体的にそして指導のプロセスを大切に、子どもたちの指導に当たっていただきたい。

